

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	みやき町立北茂安小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学力の向上」に関しては、学力向上対策評価シートでのマイプランの活用はできたが学年内で体力が十分にはなかったため、情報共有の場を設定することが必要である。</li> <li>「心の教育」に関しては、教員への思いやり、継続的・正確な指導、更なる心の育成が今後の課題である。いじめ防止等については組織的に対応が実現できた。</li> <li>「健康・体づくり」に関しては、教員での downstairs について情報、保護者ともにも取り、必要に応じて具体的な指導を行うことで、児童の安全・安心な生活についての意識を持たせることができた。</li> </ul>
2 学校教育目標	<p>未来を切り拓く北っ子 ～学び合い、つながり合い、磨き合う児童の育成～</p>
3 本年年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>北っ子一人一人に役割をもたせ、認め、励ます教育活動を推進する。</li> <li>笑顔であいさつ、靴・スリッパ並べの定着できる環境を作る。</li> </ul>

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1) 共通評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		校関係者評価	主な担当者
	評価項目	取組内容		達成度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果		
●学力の向上	○学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○学習状況調査で全学年の総合平均点が県平均を上回る。下回った領域への対策を講じる。	・授業の導入を工夫し、児童が前のめりになる手立てを講じる。 ・今年度から始めた「3Cミーティング」において、本校の課題「学力2極化」への具体的な対策を立てて実践する。	A	・教材自体の魅力、前時までの授業の様相、児童の反応などを総合的に捉えて、それぞれの教員が導入の工夫や、特別な手立ての有無を判断して実施しようとしている。 ・「2極化への対策」として、「教員同士の対話が必須」というエビデンスがあり、3Cミーティングがその場面としてさらに機能するように進める。	A	・全ての教員が「授業の導入」について、何らかの手立てや工夫を講じており、子どもが「やりたい! 学びたい!」と前のめりになる姿が多く見られるようになった。学習状況調査は、6年生(国0.97算0.98)以外の学年で達成できた。 ・3Cミーティングは全3回の実施にとどまらず、参加した教員からは「少人数で話しやすい、対話しやすい雰囲気だった。来年も続ける」	○学力向上担当	
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童の割合が、70%以上。	・授業では、振り返りの時間を設け、これからの自分の生き方について考えさせることで、道徳的価値について気付かせ、他者と共によりよく生きようとする心を育む。	A	・道徳の授業を中心に、相手の気持ちや命について考える時間を設けた。また、他者を思いやる優しい心を育むために、「人権集会」や「ほかほかの木」の取り組みを行った。 ・ワークシートを活用し、残していくことで、いつでも自分の考えを振り返ることができるようにした。	A	・道徳に関するアンケートにおいて、道徳の時間が好きだと答えた児童が91%。授業の中で、思いやりや命の大切さを実感し、今後の生活に生かそうと考えた児童が96%(どちらも、そう思う、まあまあ思うを含む)となり、目標達成できた。今後も日々の教育活動で豊かな心の育成に努めていく。	○道徳教育	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対応等)について組織的対応ができていてと回答した教職員の割合が90%以上	・日常的な観察やアンケートの実施による早期発見。 ・ケース会議や生徒指導協議会による早期対応と共通実践。	A	・学校生活アンケートやいじめ・体罰等アンケートを実施し、いじめの状況や対応について、生徒指導協議会で全職員による共通理解を図った。学年の実情に応じて学年集会を行い、いじめの抑止効果が得られた。	A	・学校生活アンケートによる早期発見、事案発生時の早期対応など、学年・学校全体と組織的対応ができた。 ・「共に生きるを考える」で人権について考えた。必要に応じて、各学級で人権講話を考えたり各学級で「思いやりの木」に取り組みたりして、思いやりの気持ちの高まりが感じられた。	○生徒指導担当	
●健康・体づくり	⑥「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	⑥「健康に良い食事をしている」児童(5年生)70%以上	・栄養教諭と連携した給食時間や授業における食に関する指導の充実を図る。 ・授業で学習したことを家庭でも継続できるように工夫し、家庭と連携し、望ましい食習慣の定着を図る。	B	・体育大会や委員会活動など様々な場面で活躍する機会を得、責任感が身に付いた児童も多い。人の役に立つことに喜びを感じるようになった。 ・具体的将来の夢や目標を持っている児童は98%となっており、前向きな気持ちで自分の将来について考えていることが分かる。	B	・卒業を前に、言葉やスピーチで将来の夢について書いた話したりする場面があった。1学期に書いた夢と変わっている児童もいるが、98%の児童が夢を持ち、それに向けて努力したり学校で頑張りたいと考えている。将来に向けて前向きな気持ちを持っていることが分かる。	○特別活動・6年	
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	B	・職員会議を昨年度から3回削減し、会議内容の精選と授業準備や学年打合せ(19時)へ施設完了とし、金曜日を定時退勤日(18時施設)に設定する。 ・時間外勤務表で勤務実態の把握を行い、業務改善に努める。	B	・職員会議は、来年度も10回で計画をし、放課後の時間確保を図る。 ・全職員が施設時間や定時退勤を意識しながら勤務をすることができた。 ・来年度も業務改善案を職員から募りながら、働き方改革を継続する必要がある。	○教頭	

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目	重点取組		具体的取組	中間評価		最終評価		校関係者評価	主な担当者
	評価項目	重点取組内容		達成度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果		
○教職員の資質向上	○校内研究の充実 「自ら考え、共に学ぶ児童の育成」の研究テーマのもと、授業研究会に取り組み。	・自己の「授業力向上」および「意識の転換」が実現した」と回答する教師90%を目指す。 ・「授業が楽しい」と回答する児童80%を目指す。	・今年度から始める「3Cミーティング」の実施と改善を繰り返し、教師の主体的な取り組みを推進する。	A	・主体的な取り組みを推進できているかは、まだ分からないが、「3Cミーティング」では参加した全ての教師が同僚の悩みや疑問に対して、自分の経験や考えを共有して、自分の言葉で対話していると感じる。授業研究会の様子を見て、同じ様子が見られる。	B	・教師アンケートおよび児童の学習状況調査の結果より、数値目標は達成した。しかし、教師が主体的に学ぼうとする姿勢や「実際に授業力が向上している」という実感には、個人差がある。	○校内研究	

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…県共通 ○…学校独自 ●…志を高める教育</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「学力の向上」に関しては、今年度から取り組みはじめた「3Cミーティング」は年3回実施した。職員からは肯定的な意見が多く聞かれたため、来年度も内容や方法を工夫しながら、本校の課題「学力2極化」への具体的な対策として実践を継続する。</li> <li>「心の教育」に関しては、道徳の授業や人権集会等で、思いやりや命の大切さを実感する児童の育成に取り組むことができた。来年度も継続し、日々の教育活動で豊かな心の育成に努めていきたい。</li> <li>「健康・体づくり」に関しては、今年度から望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成について取り組んだ。日々の給食指導や、担任と栄養教諭によるTTでの授業、朝食振り返り週間や学校給食週間で、くり返し指導を行っている。評価Bとしているが、少しずつ成果が表れている。今後も継続して取り組み、家庭と連携しながら望ましい食習慣の定着を図る。</li> </ul>
----------------	--